

# 大麦品種「ファイバースノウ」の栽培法

福島県農業試験場 会津地域研究支場

平成13～14年度福島県農業試験場試験成績概要

## 1 部門名

普通畑作物－大麦－施肥法－栽植様式・栽植密度－会津平坦

分類コード 02－03－13156700

## 2 担当者

渡部 隆・齋藤正明・齋藤弘文

## 3 要旨

会津地域における大麦品種「ファイバースノウ」の栽培法の確立に向け、施肥法及び播種量について検討した。

- (1) 地力が中庸な普通畑で栽培した場合(2001年)、基肥窒素量を1.2kg/a施用した区が最も収量が高かった。やや地力の高い普通畑で栽培した場合(2002年)、基肥窒素量を1.0kg/aより増やしても、増収効果は見られなかった。また、基肥窒素量を1.2～1.4kg/a施用した区では、精麦の白度が低下した。
- (2) 播種量を増やすことによって越冬前の生育量は増加した。播種量を変えても稈長、穂長には差が見られなかったが、穂数は播種量が増えるにしたがって増加する傾向が見られた。収量は播種量0.8kg/a区が最も多く、1.2kg/a区と1.4kg/a区は倒伏し、減収した。
- (3) 以上のことから、収量、品質両面から見た場合、「ファイバースノウ」の基肥窒素量は0.8～1.0kg/aが適当である。追肥については、慣行どおり、幼穂形成始期(越冬直後で、会津平坦部の場合、3月上旬頃)に窒素量で0.3kg/aを施用する。また、最適播種量は、0.8～1.0kg/aである。

## 4 その他の資料等

なし